

「日本人の国民性調査」をめぐる理論的考察と方法論的検討

——「宗教意識」に関する質問諸項目に焦点を合わせて——

統計数理研究所 真鍋一史

I. はじめに

本発表は、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所の知的財産の一つである「日本人の国民性調査」をめぐる、「社会調査論」の視座から理論的考察と方法論的検討を試みるものである。

II. 「日本人の国民性調査」の宗教意識に関する質問諸項目の理論的考察

ここでの理論的考察においては、宗教意識の「次元の細分化」、そして「測定モデルの検討」という点が出発点となる。そのため、宗教社会学の領域における「概念化」と「操作化」に関する研究成果が利用される。〈問 11 あなたは、先祖を尊ぶ方ですか、それとも尊ばない方ですか？〉この質問項目については「伝統的な生活上の慣習の次元」と「先祖崇拝という宗教的信念の次元」が、さらに後者については「具体的・個別的な先祖へのメモリアリズムの次元」と「抽象化・一般化された信念の次元」の区別などが提案される。〈問 12(a) あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか？〉この質問項目については、「belonging」と「believing」の区別などが重要なポイントとなる。〈問 12(b) いままでの宗教にはかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか？〉この質問項目については「幅の広い宗教意識の次元」と「幅の狭い宗教意識の次元」、「無宗教の次元」と「無神論の次元」の区別などが分析課題となる。〈問 13 あなたは、「あの世」というものを信じていますか？〉ここでは、「教義の次元」と「フィーリングの次元」、「あれもこれも次元」と「あれかこれかの次元」の区別などが示唆される。つぎに、理論的考察は、宗教意識をめぐる「因果モデルの構築」へと進められる。それは「原因変数：ソシオ・デモグラフィック諸項目（性、年齢、学歴、地域）」→「宗教意識に関する 4 項目」→「結果変数：個人的・社会的な意識や価値観の諸項目（問 14 幸福か、問 18 人は信頼できるか、問 28 自分のしあわせか、世の中のためか、問 38 環境保護は重要か）」という関係性の流れで構成される。

III. 「日本人の国民性調査」の宗教意識に関する質問諸項目に関する方法論的検討

以上のような理論的考察を踏まえて、それらを確認するためのデータ分析を試みる。それは、①単純集計、②相関マトリックス、③尺度分析、④因子分析、⑤クロンバックの α 係数、⑥諸変数間の因果関係を示す平均値の折れ線グラフ、などである。データ分析の結果は、①を踏まえてなされた②～⑤の分析から、宗教意識に関する 4 項目間の相関係数、再現性係数、因子負荷量、 α 係数の値は大きなものではなく、4 項目の「信頼性」のレベルは高いものとはいえない。そして、⑥の分析から、「折れ線グラフ」は仮説どおり右肩上がりのパターンを示しているものの、その角度は大きなものではなく、これら 4 項目の「妥当性」のレベルも高いものとはいえない。

IV. おわりに

以上の結果が、日本人の宗教意識の実相を捉えたものなのか、それとも測定の方法論的問題を示したものなのか、の検討が今後の重要な課題となる。